

第1話

—川辺—

このお稲荷様は
大変茶目化のある
神様でした…



たまたがもの
民話と伝説

三吉稲荷

さん きち いなり

—その昔、奥州にたいそう
信心の厚い農夫がいた—

あらは
合意な
る姓だけんじ

せめて
一生に一度は
お伊勢詣り
をしたいもんだ
なあ

川辺八幡神社の
東側に祀られている
大身稲荷大明神
のことを、
通称三吉稲荷
と言う…
なせ三吉稲荷
と言われるよう
になったかと
言おうと…

そして、今じ願の
伊勢神宮参り
をすませる
ことができた

こうして
参り参った
のもよへて
神様の
ご利益なのだ

—こつして、また
長い苦しい帰路の
道中が始った—

—ある日、
思いきって伊勢参り
の旅の人となった—

カゴにも
乗らず
馬にも
乗らず
野宿を
つげながら
いくんだ

二人は旅の巨尻安さからすぐに親しくなり道連れとなったのである。

今夜はオシの家泊っていかな

ここから五里ばかり先の川辺村といふとこだよ

やれやれ
まればあと一息
もう安じです

これより奥州路

人のよさそうな旅人らしい田村が近づいてきた。名をニ三と名乗った。

その夜はそれはそれはとてつもない高熱な食膳だった

二人は川辺村の三士の家に着いた...

「チャーン」
この家がニ三さんの家かい？

ありゃありゃ

「このようにこのお稲荷さまは、実に多くの人たちを化かしたらしいが後になつてまゝはれるようなことはあり、ますます信仰を傳へたと伝えられている。」

ワッパッパッ...
実はオシも、ニ三度だまされたことがあるよ

その羽立日